

教 師 ノ ー ト

| | |
|------------------------------------|---|
| 日付 | 2018年 6月 3日 |
| 単元 | ペンテコステ |
| テーマ | 行くべき道に導いてくださる聖霊 |
| タイトル | ピリピにて |
| テキスト | 使徒の働き 16:1-15 |
| 参照箇所 | 暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) Iコリント 2:11 or ヨハネ 16:13 |
| AG 日曜学校教案参照箇所 | 小学下級2巻―主題4―5課、中学3巻―主題1―7課 |
| □導入 | <p>あなたは迷子になったことはありますか？迷子になると本当に大変ですね。最近の自動車や携帯電話には目的地まで導いてくれるナビゲーションがついているものが多くなりました。私たちの人生も迷子になったら大変です。毎日私たちと一緒にいてくれて幸せな人生へと歩むべき道を導いてくれるナビゲーションがあったら欲しいと思いませんか？</p> |
| □ポイント1 パウロはアジアでみことばを語る予定にしていました | <p>イエス様を信じたパウロは大胆にイエス様は救い主であることを人々に伝えました。特に神様はパウロを異邦人(ユダヤ人以外の人々)に福音を伝える役割を与えてくださいました(参照:使徒 9:15、13:2)。多くのユダヤの人たちは自分たちこそ神様に選ばれた特別な民で、自分たち以外の人々には神様の祝福はないと考えていたのです。しかし、神様のお考えは違いました。神様はまずユダヤ人から始まってすべての国の人々にイエス様の素晴らしい救いの知らせを伝えたいと願っておられました。そこでパウロをその特別な任務のために用いてくださったのです。</p> <p>パウロは異邦人の人たちにも福音を伝えるために全三回の伝道旅行をしました。今回はその二回目の時の出来事です。パウロはいつものように他のお弟子さんたちと一緒に出かけました。今回はまずアジアの地方でイエス様のことを伝えようと考えていました。</p> |
| □ポイント2 聖霊はパウロたちを予定とは違うマケドニアへと導きました | <p>ところが聖霊がパウロの内に「アジアでみことばを語ってはいけない」と言われました。理由はわかりませんが聖霊の導きに従うことにしました。そこでパウロたちは進路を北に変えてフルギヤ・ガラテヤの地方を通り、さらにムシヤ、ビテニヤと進もうとした時、再び聖霊はパウロに「そちらの方向ではない」と語られたのです。いったいどうしたことでしょう。しかし、パウロは聖霊に導かれるままにムシヤを通りトロアスに下ることにしたのです。</p> <p>そんなある夜、パウロは幻を見ました。一人のマケドニア人がパウロの前に立って「どうかマケドニアに渡ってきて私たちを助けてください」と熱心をお願いしている幻でした。パウロはこれは神様からの導きに違いないと、すぐにマケドニアに向かいました。今まで自分たちの思いとは違うところに聖霊が導いておられたのはまさにこのためだったことがわかったのです。</p> |
| ☞ | <p>アジア、フルギヤ、ムシヤ、トロアス、マケドニアなどいくつかの地名が出てくるが聖書の巻末地図などを参照して生徒と一緒に位置を確認することで聖書の話がよりリアリティのあるものになるでしょう。伝道旅行の地図を作成するのも一つです。</p> |

☞「聖霊に導かれる」「聖霊の声を聞く」という表現が具体的に生徒に分かるように教師が体験した聖霊に導かれる体験を話すといよいでしょう。物理的に耳に聞こえてくるのではなく、心に聞こえる声、みことばや祈りの中で行くべき道、なすべきことが教えられたことなどを証しましょう。神様は様々な方法で私たちにもみこころを伝えられるお方です。かつては預言者や天使、幻を通して語られましたが、今は内に住む聖霊を通し、みことばによって私たちの心に語られることが基本です。

□ポイント3 マケドニヤの街ピリピでルデヤと出会いその家族が救われました

パウロはトロアスから船に乗りマケドニヤの地方都市であるピリピに滞在しました。そして安息日になると祈り場がある川岸に出て行ってそこに座って集まってくる女性たちにイエス様のことを話しました。するとその中にテアテラという町から来ていたルデヤという女性がいました。ルデヤは紫布を売る商人で神様のことに理解のある女性でした。彼女はパウロの話を中心に聞いていました。そして神様はルデヤの心を開いてパウロの話を中心に留めるようにされたのです。ルデヤはパウロの話すイエス様を信じました。そしてバプテスマを受け、彼女の家族もイエス様を信じバプテスマを受けました。そしてパウロたちを自分の家に招いたのです。神様が聖霊によってマケドニヤにパウロを導いたのはまさにこのためだったのですね。

☞「祈り場」…ピリピにはまだユダヤ人の会堂がなかったのではないかとされている。そこでパウロはユダヤ人の非公式の集会場である祈り場を探したのである。パウロは異邦人伝道を志していたが、彼の願いはまず同胞のユダヤ人が救われることであつた(参照:ローマ11章)。そこで外国の地に行った時はまずユダヤ人の集会場を探し、そこを拠点として宣教活動を行った

☞「紫布商人」…小アジアにあるテアテラは紫布の染料で有名だつた。当時紫布は非常に高価なものであつたのでルデヤは裕福な人であつたといわれている。ピリピの家の教会の拠点となるにふさわしい人物を神様は備えておられたのである。ちなみに、元来紫布は地中海のアッキ貝からとれる微量の色素を集めて染料とし染めた布で非常に高価なものであつた。聖書中でもこれを用いた人は王や高官(雅3:10, ダニ5:7)、金持(ルカ16:19)がほとんどである。彼女が扱った紫布は、彼女の町テアテラで生産されるもので、この地方でとれるあかね草の根からとつた染料で染めたものと考えられる。

□結論 聖霊は私たちが進むべき道を示し導いてくださるお方です

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

聖霊はパウロが行くべき道を確かに示して下さり導いてくださいました。聖霊の導きに従った時に、パウロは救われるべき魂に出会うことができたのです。あなたはいつも聖霊の声を聞いていますか？聖霊の導きに従っていますか？聖霊は聖書のみことばを土台として、祈りの中や人からのアドバイス、環境などを通してあなたを正しい方向へ導いてくださるお方です。行くべき道がわからず迷っていることはありませんか？不安なことはありませんか？祈りとみことばの中で聖霊の声に耳を傾けましょう。示されたことを牧師先生や先生に相談してみるとよいでしょう。